



文部科学省 大学の世界展開力強化事業 (インド タイプB) 第1回シンポジウム 日印交流の現状と展望-プラットフォーム構築に向けて

日時・会場

2018/12/20 木

10時30分～17時30分 (開場/10:00)

伊藤国際学術研究センター 謝恩ホール
東京都文京区本郷7-3-1 TEL:03-3812-2111

〈アクセス〉

本郷三丁目駅(丸の内線、大江戸線)から徒歩8分
湯島駅または根津駅(千代田線)徒歩13分



プログラム

※同時通訳付

10:30～10:45 開会 主催者挨拶

【第1部】プラットフォーム構築プログラムの意義と展望

10:45～11:00 プラットフォームプログラムの紹介

11:00～12:00 基調講演「日印知的交流の歴史と現代的意義」

12:00～13:30 ランチ・ポスターセッション

13:30～14:30 招待講演1) Prof. Mahesh Panchagnula
Dean, International & Alumni Relations IIT Madras

招待講演2) 小田 天平氏
東日本旅客鉄道株式会社 インド高速鉄道部門 次長

【第2部】世界展開力強化事業(インド)の実績と今後

15:00～16:05 日印学生交流プログラム等体験者による報告発表

16:05～17:25 パネルディスカッション「日印産学官連携と人材育成(仮)」

※インド工科大学教員もパネリストとして参加予定

17:25～17:30 閉会挨拶

プログラム、講演者の最新情報はこちらをクリック!

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/jiepp/ja/symposium/index.html>

お問合せ先

JIEPP事務局

TEL: 03-5841-0491

Mail: jiepp.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

シンポジウムのお申し込みはこちらから

<https://goo.gl/forms/berY3KiX30o3NMUr1>

参加無料
事前申込
必要



主催



参加大学



平成29年度に選定された本事業では、各大学・機関で実施されている日印交流事業を貫くネットワークを形成し、多様な情報を横断的に共有することで、日印の大学、企業等とともに新たな交流を創出し、持続可能で強固な日印交流を発展させるプラットフォームを構築する取組を行います。

今回のシンポジウムでは、各採択校大学の世界展開力強化事業（インド タイプB）で展開している事業活動の紹介、日印産学官連携で活躍されている第一人者や交流プログラムに参加した学生から体験を通じて得られたことを中心に発表し、参加者が一同に情報・意見交換を行うことで、新規の日印交流や人的ネットワークの拡大を目指します。

【基調講演】



■田辺 明生（たなべ あきお）氏

東京大学大学院総合文化研究科教授。同研究科グローバル地域研究機構南アジア研究センター長。学術博士。歴史人類学・南アジア地域研究を専攻。岡山県出身。1988年東京大学法学部卒業、93年同大学院総合文化研究科博士課程中退、93年東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手、98年京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科助教授、2004年京都大学人文科学研究所助教授（後、准教授）、2009年京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授などを経て、2016年より現職。著書に『カーストと平等性—インド社会の歴史人類学』（東京大学出版会）、翻訳書にゴウリ・ヴィシュワナートン『異議申し立てとしての宗教』（共訳、みすず書房）等がある。

【招待講演】



■小田 天平（おだ てんぺい）氏

東日本旅客鉄道株式会社 国際事業本部インド高速鉄道部門 次長

1991年入社。駅勤務等の後、人事部にて主に採用、教育計画策定等に携わる。その後、支社の人事部門、サービス品質改革部門等、様々な業務を経験。2015年には海外鉄道コンサルティルテング事業を行う子会社の日本コンサルタンツ（株）（JIC）にて組織・人事制度整備を進める。2017年より現職。ムンバイ・アーメダバード間高速鉄道建設事業においてコンサルティングを行うJICを支援する形で、同事業の運営主体であるインド高速鉄道公社職員の人材育成に関わっている。

【パネルディスカッション】



■武鍬 行雄（たけやり ゆきお）氏

元ソニー・インディア・ソフトウェア・センター社長
慶應義塾大学工学部電気工学科卒業、大学院工学研究科修士課程修了。ソニー入社後、NEWSワークステーション、VAIO、ネットワークサービス、コンシューマーエレクトロニクス機器などのソフトウェア開発、設計、マネジメントに従事。途中、アメリカ・マサチューセッツ工科大学に「ソフトウェア・アーキテクチャ」をテーマに1年間留学。2008年10月、インド・バンガロールのソニー・インディア・ソフトウェア・センターに責任者として着任。約7年にわたる駐在後、2015年末に帰国し、ソニーを退社。帰国後もインドIT業界団体の日本委員会委員長として、インドIT業界と日本企業の連携を推進する活動を継続している。2018年3月に『インド・シフト 世界のトップ企業はなぜ、「バンガロール」に拠点を置くのか?』（PHP研究所）を上梓。



■小林 幸徳（こばやし ゆきのり）氏

北海道大学大学院工学研究院教授、人間機械システムデザイン部門ロボティクス・ダイナミクス研究室担当、大学院工学院長（2017年4月～現在）、工学系教育研究センター長（2016年4月～現在）。1986年3月北海道大学大学院博士後期課程修了（工学博士）。2008年10月に日本留学フェア参加のために初めてインド（デリー、プネー）へ渡航し、これまでにインド鉄道省派遣学生受け入れ事業による3名の修士課程学生を含む5名を受け入れ、2名は博士後期課程を修了。現在はSTSIプログラム事業推進責任者を務める。専門分野は振動工学・制御工学・ロボット工学。



■中村 哲也（なかむらてつや）氏

日本タタ・コンサルタンシー・サービズ 専務 CDIO
ビジネスイノベーション統括本部

1988年第一勧業銀行（現みずほ銀行）入行。国内外で営業、経営企画、システム導入、三行統合など幅広い業務に従事。2007年GEジャパン入社。金融法人部、法人営業推進部を経て、2012年日本においてデジタル部門を立ち上げ、後に常務執行役員に就任。2018年4月より現職。デジタルトランスフォーメーション支援の専門組織であるビジネスイノベーション統括本部を設立。また、学術機関やStartup企業、顧客と連携・共創しながら、新しいサービスを生み出すCOIN™（Co-Innovation Network）もリードしている。”日本を元気にする”を実現すべく、日本企業・大学とインドとの懸け橋役になる活動をしている。



■鈴木 淳史（すずき あつし）氏

横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
東京大学工学部卒業・同大学院工学系研究科修士課程修了（金属材料学）。1983年横浜国立大学工学部助手、1987年工学博士、講師・助教授・教授を経て2001年より現職。その間、1989・1996年に文部省在外研究員としてMITに滞在し、ゲルの科学・技術の研究を開始。その後約30年ハイドロゲルの物性研究に従事。2012年一般社団法人 日本MRS（MRS-Japan）会長、2015年より顧問。2009年から日印合同科学評議会（DST-JSPS Science Council）委員。これまでに20回以上インド各地を訪問し、マテリアル分野の多数のインド人研究者と交流。